



○りんご作業 (9/15~10/15)

管内のりんごの肥大は、9月2日の調査でふじが77・7ミリと昨年と比べ2日ほど早い生育となっております。

今後は、台風が発生が懸念される為警戒が必要です。防風網や支柱などを点検し、気象情報には十分注意して下さい。

管内のりんご肥大状況 (9月2日調査)

	湯口	紙漉沢	相馬	平均	平年比
王 林	74.9	73.8	77.5	75.4	104.9%
ふ じ	77.8	77.6	77.8	77.7	106.1%

※単位は (mm) 平年比は過去10年間の値

●除袋時の注意

除袋の際はりんごの果面焼けを出さないために次のような注意が必要です。

- ・一般的な二重袋では、まず外袋をはぎ、果実の色が黄色みがかつた時、あるいは薄い縞が入った時に内袋をはいで下さい。
- ・一発袋をはぐ場合には、曇天か晴天の日中(10時~14時)に行ってください。

また、外袋をはぐタイミングで果実に密着している葉を摘み取るようにしましょう。これは着色ムラをなくし、ハマキムシ類の被害を予防する場合にも有効です。

●被害を拡大させないために

黒星病・炭そ病等の被害果は、被害拡大を防ぐためにも、見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど適切な処理をしましょう。

果実に発生する疫病は、降雨時の収穫等によって、果実に泥が付着することで、冷蔵庫内や出荷先

にて発病することから、降雨時の収穫の際にはできるだけ果実に泥を付着させないように収穫力の底にネットを敷き、収穫力を直接地面に置かないなどの工夫が必要となります。落とした果実を収穫果に混ぜたり、泥のついた手袋などでは果実に触らないようにしましょう。

●農作業事故には十分注意を

これからの時期は、夕暮れが早く農作業も忙しくなります。機械の取り扱いや、ハシゴの上り下りをする際は十分注意し、事故やケガのないように農作業を行いましょう。

2019年 農作物防除記録の回収について

●農作物防除記録の記入例●

農協提出用

2019年度 農産物 防除記録

地区 飛馬 太郎 コード番号 0 1 0 0 1 0 1 0
氏名 五所 共防名 _____

SSタンク容量	散布面積
500・600・ 1000 (ℓ) <small>※いずれかに○を付けてください。</small>	1 町 1 反歩

作物名 _____

共同防除(共防連加入)の場合は提出不要(りんごのみ)

	散布期間	散布杯数	薬剤名(倍数)
1	4 月 25 日 ~ 月 日	1000 ℓ 1 (杯)	マシン油(200) ペフラン(1000)

※共同防除(共防連加入)の場合は提出不要です。(りんごに限る)

※共防連に加入していない共防は代表者が一括して提出しても構いませんが、構成員全員の名前を記入して下さい。

10月上旬に、職員が今年度の「農作物防除記録」の回収に伺います。記入例を参考に、「誓約書」と併せて必ず提出くださるようお願い致します。
なお、「りんご生産量調査」等については12月上旬に回収いたします。

果実販売動向

販売課 米澤 松太



8月の果実動向は、全般に入荷が少なく、多くの品目で平年を上回る市況展開となっております。スイカ・メロンについては終盤を迎えていることから総体量が少なく、下位等級品も含め高値基調の販売となっております。なし・ぶどうについては、秋のメイン商材として売り場が拡大されていますが、各産地入荷が少なく、堅調な販売が続いています。

桃については、各産地とも小玉傾向に加え数量減から強保合となりましたが、品質低下も散見され、下位等級については弱保合となりました。りんごについては、30年産が切り上がり、長野県産サンツがるが着色遅れ等による入荷の少なさから高値基調でのスタートとなりましたが、色薄果が潤沢に出回ったことや、一部害害果もあり、下位等級品を中心に一段下げでの販売となりました。また、きおうについては本県産がスタートし、

黄色系が少ないことや、香港、台湾向け需要から順調な販売開始となりました。連動して産地市場も堅調価格となっております。

今後、桃については、更に流通量の減少が見込まれることから、中心階級および上位等級については特に引き合いが強まる見通しであり、なし・ぶどうについてはさらに売場拡大が図られる見込みですが、総体量が多くはないことから堅調な販売が続く見通しです。りんごについては、長野県産サンツがるがピークを迎え、末端では価格を下げながら積極的な売り場展開図られる見込みの中、色薄果等の下位等級品の割合が高いことから上位等級、本県産への引き合いは強い状況が予想されますが、他県産の進度がやや遅れていることから販売状況は厳しくなることが予想されますので、企画販売に積極的に取り組むとともに、作業員の減少が深刻な状況となっております。

る中、大学生アルバイトや、外国人研修生、「職員職場離脱」の実施により、有利販売に努力します。

りんごの予想収穫量及び結果樹面積

青森県「攻めの農林水産業」推進本部公表

品 種	ふ じ	王 林	ジョナ	つがる	その他	合 計
予 想 収 穫 量 (t)	214,700	43,600	40,300	40,400	96,500	435,500
前 年 比 (%)	96	105	103	97	98	98
結 果 樹 面 積 (ha)	9,460	2,110	1,950	2,270	3,910	19,700
前 年 比 (%)	99	99	98	100	100	99

加工用リンゴ買取実施

- 受付期間● 令和元年9月28日(土) 8:00~17:00
- 受付場所● J A相馬村りんご加工センターA棟(旧紙漣沢支所跡)
- 持ち込み方法● 木箱や自家用コンテナ、J Aコンテナに入れて持ち込みください。
- 買取品種● つがる・きおう
その他の品種
※当日の価格になります。
※落ち実加工、腐敗果等は絶対に混入しないでください。



直売所「林檎の森」

直売所 千葉翔平



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

当直売所には、会員の方々が丹精を込めて作った新鮮で美味しい野菜や果物、惣菜が毎日たくさん並んでいます。スイカやメロンについては旬の季節が終了し、大盛況の賑わいを見せて完売いたしました。一方、嶽きみやりんごなどの入荷が増えてきています。嶽きみは最近小さいサイズの販売をしている事が多いものの、プリプリの食感と独特な甘味のある美味しさは間違いなしです。毎日のように発送や電話での注文が来ており大人気です。

さて、最近は山のキノコ類の入荷がされてきました。これから、今以上に山の幸が出てくると思いますので、この秋にしか味わうことの出来ない食材を堪能してみてくださいいかがでしょうか。

また、果物はつがるやきおうなごのりんごは、甘味と酸味のバラ



嶽キミの一種「^{めくみ}患味」が店頭に並ぶ

ンスが特徴的です。「林檎の森」に立ち寄った際は、旬なりんごを味わってみてはいかがでしょうか。

9月に入ると、本格的にりんごが入荷され、陳列棚は甘味と酸味が特徴の早生種のりんごが多い一方で、これからは徐々に甘味と酸味の深い中生種や晩生種のりんごが多くなってきます。りんごの発送も受付しておりますのでお気軽にスタッフまで一声おかけください。これからも直売所「林檎の森」をよろしくお祈いします。

いきいき女性部通信

農業振興課 女性部 堀井裕子



8月9日、農協女性部は夏期研修を実施し、今回の研修では平成23年に発生した東日本大震災で津波から残った田老観光ホテル跡地と浄土ヶ浜を訪れ、32名の部員が参加しました。

学ぶ防災ということで、津波が襲来する様子をホテル6階から撮影したのを見てきました。6階建ての建物が4階まで浸水し、1・2階は完全に破壊され、今もなおホテルの骨組がむき出しの状態に残されており、その姿からは津波の恐ろしさを改めて感じることが出来ました。

8年が経ち、色々なものが復興されていました。前回の津波被害から学び、作り直された堤防を見学しました。ガイドさんが、またいつ来るかわからない災害に向けて自分で自分の命を守る意識を持って伝承していくと聞いて、身の引き締まる思いでした。

午後から浄土ヶ浜で遊覧船に乗りました。遊覧船では、ウミネコ



浄土ヶ浜にて女性部一同で記念撮影

にパンやかっぱえびせんなどで餌付け体験ができ、部員の中には1ヶ100円のパンを買い、ウミネコに餌やりをしている方もいました。

今回の研修は、例年の研修に比べ少し距離も時間もかかりましたが、足を延ばした事で震災のその後を見ることが出来ました。

震災だけでなく、これから来るかもしれない大雨や台風など心配をしつつ防災の事を考えながら、帰路に着きました。